

報告書

令和元年 8 月 17 日

2019 MAPWiST & YWS CAMP



東京工業大学 修士 1 年 堤志穂

tsutsumi.s.ab@m.titech.ac.jp



イベント詳細.....	2
1 日目 : Research Institute Tour.....	3
KBSI-Korea Basic Science Institute.....	3
Gender Barrier	4
ポスター発表	4
2 日目 : ポスター発表 & Group mentoring	4
女性科学者に関する統計データ・体験談	5
女性科学者の育成	5
国際ネットワークの形成	5
3 日目 : パネルディスカッション	5

イベント詳細

日時：令和元年8月7日(水)ー8月9日(金)

開催場所：Ewha Womans University （韓国、ソウル）

開催目的：アジア・太平洋の若い女性科学者の国際的競争および協力を促進する。

参加者：26国籍、約180人の若い女性科学者

開催者：The association of Korean Woman Scientists and Engineers

スポンサー：Ministry of Science and ICT

National Geographic

Seoul Metropolitan Government

スケジュール：

Time	[Day 1] August 7 (Wed.)		[Day 2] August 8 (Thu.)		[Day 3] August 9 (Fri.)	
	Program	Room	Program	Room	Program	Room
09:30			Registration	Lobby, ECC Theater	Registration	Lobby, Lee sam-bong Hall
10:00			Invited Lecture I	ECC Theater	Opening Ceremony	Lee sam-bong Hall
			Invited Lecture II		Plenary Speech I	
11:00			One Minute Pitch		Plenary Speech II	
12:00			Luncheon & Research Talks with National Geographic		Networking Luncheon	ECC Theater
13:00	Registration	Lobby, ECC Theater	Poster Presentation		Break Time	-
14:00	Research Institute Tour	Western Seoul Center, KBSI Natural History Museum	Group Mentoring	ECC Theater	Policy Forum	Lee sam-bong Hall
15:00			Korean Culture Experience		Break Time	-
16:00			Break Time		Panel Discussion	Lee sam-bong Hall
17:00						
18:00						
19:00			Welcome Dinner		Farewell Dinner	ECC Theater
20:00						

1 日目 : Research Institute Tour

KBSI-Korea Basic Science Institute

KBSI は世界の研究のプラットフォームとして機能する開放型 World-class 研究施設だという。広大な土地を占める大きな施設だったが、それすら国内に 9 か所あるセンターの一つでしかない。私たちが見学したのは、（１）X 線回析による試料の表面の細かな立体情報の解析、（２）共焦点蛍光顕微鏡、（３）Solid-state NMR の３つだった。

（１）では試料に多方向から X 線を当て、その反射角度から表面の形状を解像度高く解析ができる。（２）では細胞小器官のイメージングを見た。2D のみでの観察だったが、解像度の良さが印象的だった。私の専門である分子細胞生物学でしばしば使うツールで私の大学の共同利用室にもあるが、値の張るものなので研究室単位で持っているという話は聞かない。開放型の研究施設にこのような機器が置いてある事は、バイオベンチャー等の小規模な研究所の研究者にとって非常にありがたい事である。KBSI には約 185 の機器があり、国内外の大学/研究所に対して解析支援サービスを行っている（詳細：

https://www.kbsi.re.kr/eng_equipment0301）。最も目に新しく面白かったのは（３）の Solid-state NMR だった。半径 1.5 m、高さは 3.5 m はあろうかという巨大な機器に小さな試料を差し込んで実際に解析をするところを見せて頂いた。通常 Liquid-NMR の方が綺麗なデータが得られるらしいが、この KBSI の Solid-state NMR ではそれと同程度の質の解析が可能で、可溶性のない物質や水分で組成が変わってしまうような物質の計測に向いているのだそうだ。

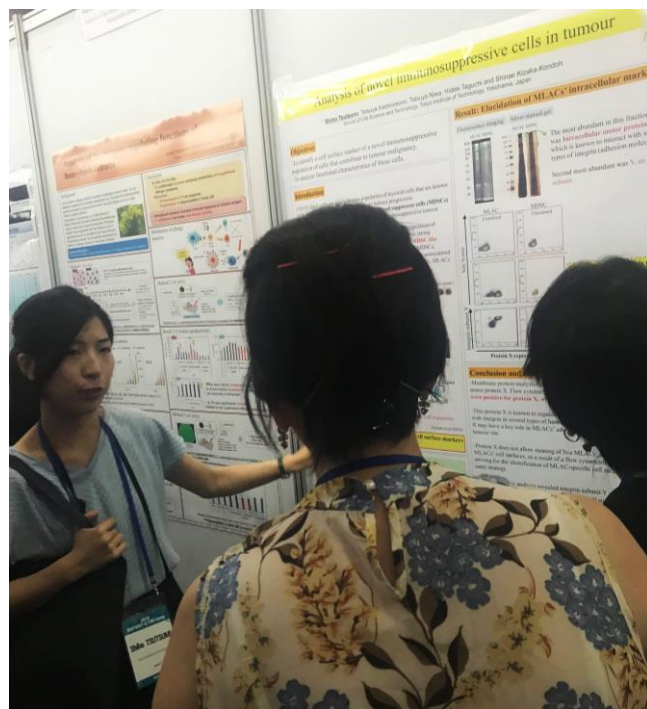
Gender Barrier

“Don't Be a Princess to be Happy,
Make Yourself Happy to be the Princess.”
家事・育児は女性の仕事、という固定観念が、日本、韓国、ミャンマー、ベトナム、モロッコ、ペルーで共通しているようだった。モロッコと韓国については、「女性のエンジニアは募集していない」と入社を断られた女性の実例が挙げられた。総じて、王子様に求愛されて結婚するのではなく、現代では自らを幸せにできる自立した女性が理想、という結論に達し、上記の英語のフレーズをポスターの表題とした。

ポスター発表

ポスター発表は1時間と短く、また自由行動とあって、満足に研究内容を人々に説明できたとは言い難い。その逆もまた然りである。

各国の研究分野の背景には、その国特有の理由（インフラ整備に伴う有害物質の環境への流出や、地域特有の植物の利用など）があり、多くのポスターにおいてはそれらを明確に読み取る事は困難であった。発展途上国においては環境破壊やそれに携わる研究より経済的発展が推進されている様子が垣間見られ、それが今の先進国で起こった結果が公害病・環境破壊・地球温暖化である事を踏まえると、先進国は後進国の発展のあり方に積極的に関わり、公害に関わる研究・教育に人材と資金を投入していくべきではないかと感じた。



女性科学者に関する統計データ・体験談

女性科学者の割合はオーストラリアとフィリピンにおいて約半数と多いのに対し、日本や他のアジア・太平洋では2,3割と低かった。そして女性医師の割合は、挙げられた45か国中日本が最低で20.3%(2015)であった。昨年東京医科大学や順天堂大学、北里大学などが入学試験において女子に対し不適切な調整をしていたという報道が記憶に新しい。パネルディスカッションにおいても、「女子は結婚や出産を機に辞めてしまう」という点が述べられた。今回のキャンプのInvited lectureにおいても、Binota Thokchom氏は久しぶりに会った韓国人女性の友人たちの多くが仕事をあきらめ専業主婦になっていたと嘆いていた。

女性が科学者・医者としてキャリアを積む事が男性と等しく可能な社会を築く必要があり、それを現実にするためには社会的基盤が未だにない事をひしひしと感じた。



女性科学者の育成

女子が科学者やエンジニアを目指す事が分化的に当然の選択肢として無い国は、日本に限らないようだった。その固定観念は1993年のKWSEの設立以降も革命を迎えていないものの、YWSキャンプに参加する参加者は年々増えており、すなわち男性優位なSTEM社会に疑問を抱く女性科学者の人口が増えた事を意味する。

国際ネットワークの形成

マイノリティーである女性科学者が国際的なネットワークを持ち団体で声を上げればその声はより強く広範囲に届く。今回のキャンプの後、SNS上でグループができた。一人一人が各国でネットワークを作り、世界とつなげる事ができたならば、少女たちが当然の選択肢としてSTEM分野で専門家になる事を夢見る社会へのきっかけを作れるかもしれない。